

造影剤の副作用について（説明）

1 造影検査

静脈に造影剤を注射して検査を行います。造影剤を使用することにより画像を明瞭にしたり、臓器や血管を詳細に調べることができます。これにより病変の診断に大いに役立ちます。

2 造影剤の副作用と発生頻度（日本医学放射線学会の調査より）

造影検査に使用する造影剤には、ヨード造影剤と非ヨード造影剤（MRIで使用する造影剤）があります。造影剤の使用に際しては、その時点での症状や以前にかかった病気、家族の方がかかった病気などに注意していますが、検査中あるいは検査後しばらくしてから（1時間から数日後）造影剤による副作用症状が起きることがあります。

1) ヨード造影剤の副作用発生頻度

① 軽い副作用

【症状】…吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、蕁麻疹、発疹、かゆみ など

【頻度】…約3%～5%以下

② 重い副作用

【症状】…ショック、アナフィラキシー様反応（呼吸困難・血圧低下）

【頻度】…2500人に1人程度（0.04%）

③ 死亡にいたる副作用

【頻度】…20万人に1人程度（0.0005%）

④ 遅発性副作用

検査終了後に遅れて副作用が見られる場合があります。症状が出るのは1時間程度から数日後までと幅があります。

【症状】…頭痛、吐き気、めまい、蕁麻疹などが多く、ごく稀にショックやアナフィラキシー様反応もあります。

⑤ 腎機能障害・・・特に腎臓の働きが悪い場合に注意が必要です。

⑥ ビグアイド系糖尿病薬（メルピン・メトグルコ等）を服用中の方は相互作用による副作用（乳酸アシドーシス）を生じる危険性があり、ヨード造影検査の前後各48時間は服用を中止してください。

2) 非ヨード造影剤の副作用発生頻度

上記①～⑤と同様の副作用について上記の10分の1程度の発生頻度とされています。MRIで用いるガドリニウム造影剤を腎機能が不良な方に投与した場合、ごく稀にNSF（腎性全身性線維症）を生じることが報告されています。

3 副作用が発生した場合の対応について

万一、副作用が発生した場合には専門スタッフ等により適切な緊急処置を行った後、ご本人・ご家族に担当スタッフから病状、状況の説明を行います。また極めて稀ではありますが、重篤な副作用の場合には院内の医師や医療スタッフを動員するシステムが確立されています。

4 造影剤を使用できない場合の対応について

重篤な副作用歴や高度の腎機能低下がある場合などで、造影剤が使用できない場合は超音波検査やMRIなど他の検査で代替し、なるべく診断能が低下しないようにします。

以上についてご理解をいただいた上で、検査を受けることに同意いただける場合には、問診・同意書に必要事項をご記入の上、ご署名（自署または記名押印）してください。

ご不明な点がございましたら、検査日までに横須賀共済病院放射線科医・スタッフにお尋ねください。

説明日：

医療機関
名称：

説明医師：

横須賀共済病院

046-822-2710